



平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年8月12日

上場会社名 日本アジアグループ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3751 URL http://www.japanasiagroup.jp/  
 代表者 (役職名)代表取締役会長兼社長 (氏名)山下 哲生  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 (氏名)渡邊 和伸 (TEL) (03)4476-8000  
 四半期報告書提出予定日 平成26年8月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績(平成26年4月1日~平成26年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	12,460	△0.5	145	—	△290	—	△344	—
26年3月期第1四半期	12,517	25.6	△411	—	△502	—	△408	—

(注) 包括利益 27年3月期第1四半期 △351百万円(—%) 26年3月期第1四半期 △526百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	△13 17	—
26年3月期第1四半期	△15 76	—

- (注) 1. 当社は平成25年10月1日を効力発生日として1株につき10株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純損失を算定しております。
2. 27年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式が存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。26年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第1四半期	93,763	22,087	22.6
26年3月期	108,763	22,496	19.8

(参考) 自己資本 27年3月期第1四半期 21,196百万円 26年3月期 21,550百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0 00	—	0 00	0 00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	0 00	—	0 00	0 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日~平成27年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	75,000	0.9	4,200	△6.2	2,500	△33.8	2,500	△0.3	95 58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年3月期1Q	27,380,880株	26年3月期	27,380,880株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

27年3月期1Q	1,226,484株	26年3月期	1,225,774株
----------	------------	--------	------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期1Q	26,154,576株	26年3月期1Q	25,919,820株
----------	-------------	----------	-------------

(注) 当社は平成25年10月1日を効力発生日として1株につき10株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、上記の株式数につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

当社は、平成26年8月20日(水)にアナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
4. 補足情報	12
(1) 受注及び販売の状況	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府や日銀による経済・金融政策によって緩やかな回復傾向が続いており、企業収益の改善も概ね好調に推移しております。また、4月からの消費税引き上げに伴い個人消費の停滞も懸念されましたが、雇用や所得環境が全般的に改善傾向にあるため予想された程には至っていません。一方、海外ではアルゼンチンの債務問題やウクライナ・ロシア問題、中国経済の成長率鈍化などが市場のリスク要因となりましたが、米国では自動車や住宅販売を中心として経済は好調に推移し、欧州はイギリスやドイツを中心に景気が回復傾向にあり、中国も預金準備率の引下げという金融緩和策を受けて景況感は好転して来ています。

このような環境の中で、当社グループはグループミッションとして新たに「Save the Earth, Make Communities Green」を掲げ、再生可能エネルギーを中心とした持続可能な社会形成に一丸となって取り組んでいます。さらに、「アジアを中心としたグローバル化」に加え、収益性と成長性に対しこれまで以上にこだわりを持ち、より強化、推進するため、構造改革や人材・技術開発を推進し、そして強固な企業集団への転換を目標に、早期に財務体質の改善を図ることを目指しております。

これらの活動の結果、当第1四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高は前年同期比0.5%減の12,460百万円（前年同期の売上高12,517百万円）、営業利益は145百万円と前年同期比で556百万円の改善（前年同期の営業損失411百万円）となりました。

営業外損益においては、円が対ユーロにおいて高めに推移する傾向にあったことで為替差損130百万円が発生し、経常損失は290百万円と前年同期比で212百万円の改善（前年同期の経常損失502百万円）となりました。

特別損益においては、投資有価証券の売却により、特別利益193百万円を計上いたしました。また、少数株主損益調整前四半期純損失は342百万円となりました。

四半期純損失は、344百万円と前年同期比で63百万円の改善（前年同期の四半期純損失408百万円）となりました。

各セグメントの業績は次のとおりであります。

#### <空間情報コンサルティング事業>

空間情報コンサルティング事業においては、国際航業株式会社を中心に空間情報を活用した「環境・エネルギー」「防災・減災」「アセットマネジメント」「行政マネジメント」に関する業務を、官民間問わず、国内外で展開しております。

当セグメントにおいては、平成26年度の国の公共事業関係費が3期連続で当初予算費比増額となり、底堅い収益環境にありました。当社グループでは、環境・エネルギー関連業務、震災復興関連業務、防災関連業務およびODA関連業務を中心に積極的な受注活動を推進してまいりました。

このような活動の結果、受注高は前年同期比0.8%減の15,815百万円（前年同期の受注高15,936百万円）、売上高は前年同期比7.2%増の5,865百万円（前年同期の売上高5,473百万円）となりました。損益面ではセグメント損失が752百万円（前年同期のセグメント損失1,287百万円）と前年同期比で535百万円の改善となりました。

#### <グリーンプロパティ事業>

グリーンプロパティ事業においては、国際ランド&ディベロップメント株式会社（以下、「国際ランド&ディベロップメント」）、国際環境ソリューションズ株式会社（以下、「国際環境ソリューションズ」）、株式会社KHC（以下、「KHC」）が、不動産賃貸、アセットマネジメント・プロパティマネジメントならびに土壌・地下水の保全に関するコンサルティングサービスや戸建住宅事業といった従来の不動産サービス事業に加えて、環境配慮型住宅の供給や太陽光発電施設的设计施工など、省エネ・創エネに関するソリューションを提供しております。

KHCの戸建住宅事業は、消費税増税前に受けた好調な前期受注の影響により、堅調に推移しました。国際環境ソリューションズは、従来の土壌汚染対策業務に加え震災復興関連業務や太陽光発電関連業務などにおいて、各グループ間の連携を進めています。国際ランド&ディベロップメントは不動産開発の進捗ならびに不動産賃貸での高稼働率を堅調に維持しながら、太陽光発電関連事業の受注活動を加速させました。

このような活動の結果、売上高は前年同期比3.9%減の3,431百万円（前年同期の売上高3,569百万円）となりました。損益面ではセグメント利益が107百万円（前年同期のセグメント損失52百万円）と前年同期比で159百万円の改善となりました。

#### <グリーンエネルギー事業>

グリーンエネルギー事業においては、国内ではJAG国際エナジー株式会社、欧州ではKOKUSAI EUROPE GmbH（ドイツ）を中心に事業を展開しております。

国内では、再生可能エネルギーの固定価格買取制度を背景に、中長期的な収益が見込まれる太陽光発電所の開発に、引き続き積極的に注力してまいりました。前期に稼働を開始した福岡県北九州市（2.0MW）、北海道幕別（0.7MW）、本別（1.0MW）、大分県杵築市（2.0MW）、1月に大分県宇佐市（1.0MW）、栃木県那珂川町（1.8MW）、香川県坂出市（新規に2.0MW）、茨城県河内町（3.5MW）、鹿児島県志布志町（1.0MW）の各太陽光発電所が期初より収益に寄与していることに加え、4月には鹿児島県霧島市（1.0MW）、東串良（1.0MW）でも稼働を開始。さらに現在も新たな太陽光発電所建設に向けた取り組みを日々進めております。

欧州地域の事業は、事業環境の変化等を勘案して発電所運営管理と売電事業を中心として、事業のスリム化を図ってまいりました。

このような活動の結果、売上高は前年同期比68.4%増の587百万円（前年同期の売上高348百万円）となりました。損益面ではセグメント利益が前年同期比27.7倍の149百万円（前年同期のセグメント利益5百万円）となりました。

#### <ファイナンシャルサービス事業>

ファイナンシャルサービス事業においては、日本アジア証券株式会社（以下「日本アジア証券」）、おきなわ証券株式会社（以下「おきなわ証券」）の証券業並びに、日本アジア・アセット・マネジメント株式会社の投信委託・投資顧問業等を中心に展開しております。

当第1四半期連結累計期間における株式市場は、買い主体として期待される外国人投資家の動向や様々な不安定要素を抱える海外情勢の影響等が懸念され、当初は軟調な推移となりました。しかし、5月末から6月にかけて欧米の堅調な景気動向や中国経済の底打ち感、そして国内では年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）の運用方針改革など、外部要因の改善や政策に対する期待感も加わり、持ち直す展開となりました。日経平均株価は、4月に14,800円台でスタートし5月中旬には14,000円前後まで調整しましたが5月下旬以降は堅調となり、好調な企業収益や海外と比較した出遅れ感、政策期待などに支えられ、6月末の終値は15,162円10銭となりました。また、円ドル相場は4月上旬には103円台でのスタートとなりましたが、米国金利動向やウクライナ・ロシア問題等の影響により、その後は101円ー102円台で、大きくは動き難い展開が続いています。

このような環境にあつて当セグメントにおいては、日本アジア証券では以前から注力している米国、香港、インドネシア、ベトナム等の外国株式、外国債券、投資信託等の募集物の販売を、おきなわ証券では投資信託を中心とした募集商品に加え、外国株式の取扱いを拡大させてまいりました。

日本アジア・アセット・マネジメント株式会社においては、注力ファンドを中心とした公募投信による運用資産の増加により収益の改善を目指しましたが、未だ再建途上にあります。

このような活動の結果、売上高は前年同期比17.6%減の2,569百万円（前年同期の売上高3,118百万円）となりました。損益面ではセグメント利益が前年同期比32.1%減の714百万円（前年同期のセグメント利益1,051百万円）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は93,763百万円と前期末比14,999百万円の減少となりました。これは主に、売上代金の回収により売上債権が減少したことによるものです。

負債総額は71,676百万円となり前連結会計年度末比14,591百万円の減少となりました。これは主に、仕入債務の減少及び借入金の返済など有利子負債の減少によるものです。

これらの結果、純資産額は四半期純損失による利益剰余金の減少等により、前連結会計年度末比408百万円減少の22,087百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期連結業績につきましては、概ね計画通りに推移していることから、現時点では当初予想を据え置くことといたします。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### 原価差異の繰延処理

操業度等の季節的な変動に起因して発生した原価差異につきましては、原価計算期間末日までにほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産のその他として繰り延べております。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### 会計方針の変更

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下、「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下、「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っております。これに伴う当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金、当第1四半期連結累計期間の経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響はありません。

### (4) 追加情報

#### 連結納税制度の適用

当社及び一部の連結子会社は、当第1四半期連結会計期間より、連結納税制度を適用しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	21,574,339	24,738,137
受取手形及び売掛金	27,710,839	8,767,112
証券業におけるトレーディング商品	311,163	743,254
仕掛品	255,820	337,299
原材料及び貯蔵品	307,114	301,572
販売用不動産	8,473,799	8,624,134
証券業における信用取引資産	8,734,203	7,430,107
短期貸付金	1,961	3,267
その他	9,391,157	10,899,753
貸倒引当金	△87,476	△82,814
流動資産合計	76,672,923	61,761,824
固定資産		
有形固定資産	21,848,311	22,735,661
無形固定資産	1,043,006	1,057,219
投資その他の資産		
投資有価証券	6,130,520	5,345,871
長期貸付金	211,423	193,443
敷金及び保証金	1,311,630	1,364,092
その他	2,417,236	2,136,545
貸倒引当金	△1,121,076	△1,112,205
投資その他の資産合計	8,949,733	7,927,747
固定資産合計	31,841,051	31,720,628
繰延資産	249,567	281,547
資産合計	108,763,542	93,763,999



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	6,554,985	2,837,752
短期借入金	14,921,300	5,951,200
1年内償還予定の社債	16,066,000	16,054,000
1年内返済予定の長期借入金	6,630,398	7,619,184
未払金	3,256,149	736,364
未払法人税等	1,334,764	180,498
証券業における信用取引負債	6,631,742	6,295,156
賞与引当金	2,115,044	553,898
役員賞与引当金	22,080	—
受注損失引当金	355,892	421,873
その他	9,379,351	11,036,708
流動負債合計	67,267,708	51,686,638
<b>固定負債</b>		
社債	753,000	718,000
長期借入金	11,631,992	10,643,671
リース債務	1,536,073	3,331,920
繰延税金負債	1,312,038	1,449,070
退職給付に係る負債	2,371,260	2,392,364
負ののれん	205,018	205,018
その他	1,144,448	1,193,924
固定負債合計	18,953,832	19,933,970
<b>特別法上の準備金</b>		
金融商品取引責任準備金	45,555	55,456
特別法上の準備金合計	45,555	55,456
<b>負債合計</b>	<b>86,267,097</b>	<b>71,676,064</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	3,892,792	3,892,792
資本剰余金	7,422,498	7,422,498
利益剰余金	10,511,948	10,167,430
自己株式	△636,010	△636,384
株主資本合計	21,191,229	20,846,336
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	1,444,967	1,310,060
繰延ヘッジ損益	△15,324	△13,798
為替換算調整勘定	△827,290	△718,536
退職給付に係る調整累計額	△242,906	△227,519
その他の包括利益累計額合計	359,446	350,206
新株予約権	34,783	34,750
少数株主持分	910,986	856,641
<b>純資産合計</b>	<b>22,496,445</b>	<b>22,087,934</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>108,763,542</b>	<b>93,763,999</b>

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	12,517,890	12,460,701
売上原価	7,894,925	7,636,524
売上総利益	4,622,965	4,824,176
販売費及び一般管理費	5,034,356	4,678,586
営業利益又は営業損失(△)	△411,391	145,590
営業外収益		
受取利息	4,347	4,560
受取配当金	45,456	33,376
負ののれん償却額	8,931	—
持分法による投資利益	—	1,408
為替差益	244,540	—
貸倒引当金戻入額	9,242	16,326
その他	43,891	30,566
営業外収益合計	356,410	86,238
営業外費用		
支払利息	352,413	353,359
持分法による投資損失	50,832	—
為替差損	—	130,201
その他	44,156	38,483
営業外費用合計	447,402	522,043
経常損失(△)	△502,384	△290,215
特別利益		
投資有価証券売却益	—	193,603
関係会社株式売却益	398,012	—
特別利益合計	398,012	193,603
特別損失		
金融商品取引責任準備金繰入れ	17,117	9,900
特別損失合計	17,117	9,900
税金等調整前四半期純損失(△)	△121,489	△106,512
法人税、住民税及び事業税	120,324	80,098
法人税等調整額	166,655	156,192
法人税等合計	286,980	236,291
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△408,469	△342,803
少数株主利益	45	1,713
四半期純損失(△)	△408,515	△344,517

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△408,469	△342,803
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	51,538	△134,862
繰延ヘッジ損益	15,886	1,526
為替換算調整勘定	△196,625	108,754
退職給付に係る調整額	—	15,386
持分法適用会社に対する持分相当額	10,846	—
その他の包括利益合計	△118,353	△9,195
四半期包括利益	△526,823	△351,999
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△526,876	△353,758
少数株主に係る四半期包括利益	53	1,758

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	空間情報コ ンサルティ ング事業	グリーンブ ロパティ事 業	グリーン エネルギー 事業	ファイナン シャルサー ビス事業	計				
売上高									
外部顧 客への 売上高	5,473,901	3,569,947	348,624	3,118,296	12,510,769	7,120	12,517,890	—	12,517,890
セグメ ント間 の内部 売上高 又は振 替高	588	219,876	1,014	122,878	344,358	55	344,414	△344,414	—
計	5,474,490	3,789,823	349,639	3,241,175	12,855,128	7,176	12,862,304	△344,414	12,517,890
セグメン ト利益又 は損失 (△)	△1,287,386	△52,454	5,401	1,051,969	△282,470	△10,672	△293,143	△118,248	△411,391

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理店業務等であります。  
 2. セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額は、セグメント間取引消去であります。  
 3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	空間情報コ ンサルティ ング事業	グリーンブ ロパティ事 業	グリーン エネルギー 事業	ファイナン シャルサー ビス事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	5,865,946	3,431,943	587,098	2,569,046	12,454,035	6,666	12,460,701	—	12,460,701
セグメント間の 内部 売上高 又は振 替高	11,758	216,184	—	77,030	304,973	483	305,456	△305,456	—
計	5,877,705	3,648,128	587,098	2,646,076	12,759,008	7,149	12,766,158	△305,456	12,460,701
セグメント利益又は 損失 (△)	△752,020	107,344	149,824	714,090	219,239	△5,304	213,935	△68,345	145,590

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理店業務等であります。  
2. セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額は、セグメント間取引消去であります。  
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## 4. 補足情報

## (1) 受注及び販売の状況

## ①受注の状況

当第1四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)		増減	
	受注高 (千円)	受注残高 (千円)	受注高 (千円)	受注残高 (千円)	受注高 (千円)	受注残高 (千円)
空間情報コンサルティング事業	15,936,862	19,642,686	15,815,711	20,735,951	△121,150	1,093,264
グリーンプロパティ事業	4,572,151	12,757,393	3,629,620	10,284,694	△942,531	△2,472,698

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。  
 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
 3 グリーンエネルギー事業及びファイナンシャルサービス事業については、受注生産ではないため、「受注高」及び「受注残高」の記載を省略しております。

## ②販売の状況

当第1四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)		増減	
	売上高 (千円)	構成比 (%)	売上高 (千円)	構成比 (%)	売上高 (千円)	対前期増減率 (%)
空間情報コンサルティング事業	5,473,901	43.7	5,865,946	47.1	392,045	7.2
グリーンプロパティ事業	3,569,947	28.5	3,431,943	27.5	△138,003	△3.9
グリーンエネルギー事業	348,624	2.8	587,098	4.7	238,473	68.4
ファイナンシャルサービス事業	3,118,296	24.9	2,569,046	20.6	△549,250	△17.6
その他	7,120	0.1	6,666	0.1	△454	△6.4
合計	12,517,890	100.0	12,460,701	100.0	△57,188	△0.5

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。  
 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
 3 当社グループの主要事業である空間情報コンサルティング事業の売上高は、第4四半期連結会計期間の業務割合が大きいため、第3四半期連結累計期間までの各四半期連結会計期間と第4四半期連結会計期間の業績に季節的変動があります。